

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

基本目標	指標の状況					2022年度自己評価	
	指標の名称	基準値※	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	実績値（2022年度）	評価	評価の理由
基本目標 1 多彩な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実	文化芸術公演等の鑑賞や文化芸術活動への参加をしている市民の割合	20.2%	25.3%	20.7%	21.1%	□	新型コロナウイルス感染症の影響により入場制限を行う状況であるものの、文化芸術イベント等は数多く開催されるようになっている。指標の状況も、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため、□とした。
	文化施設利用者数	132,477人	409,270人	132,711人	258,344人	○	市内文化施設が改修工事により休館し、新型コロナウイルス感染症の影響により入場制限を行う状況であるものの、文化芸術イベント等は数多く開催されるようになっており、目標値に達するような回復傾向にあることから○とした。
基本目標 2 文化芸術活動の活性化	市民文化祭や一流芸術文化イベント等の参加者数及び鑑賞者数	2,459人	19,434人	9,684人	16,721人	○	新型コロナウイルス感染症の影響により入場制限を行う状況であるものの、文化芸術イベント等は数多く開催されるようになっている。制限のある中での開催ではあったものの目標値の8割程度まで回復してきたことから○とした
基本目標 3 次代の文化芸術を担う人材の育成	後継者育成のための講習会等への参加者数	190人	790人	170人	446人	○	後継者育成事業は開催されたものの、指導者を都市圏から招聘することが多く、新型コロナウイルス感染症の影響により制限のある中での開催となった。目標値には達しなかったが、前年度に比べ、2.5倍の人数となったことから○とした。
基本目標 4 市民が誇れる文化財の継承	郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じている市民の割合	63.6%	67.9%	65.6%	66.4%	□	指標の状況が、基準値と比べ増加傾向にあるものの、目標値に達していない状況であるため、□とした。
	文化財の公開・活用イベント等に参加したことのある市民の割合	20.6%	24.0%	23.7%	24.4%	○	新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止していたの文化財の公開・活用イベント等の開催が徐々に回復傾向となり、参加者も増加している状況。指標の状況も、目標値を上回っているため、○とした。
基本目標 5 文化芸術を活かしたまちづくり	文化芸術が市の観光振興や産業振興などまちづくりに活用されていると感じる市民の割合	68.4%	75.6%	68.4%	68.0%	□	指標の状況が、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため、□とした。

※基本目標 1 ～ 4 の基準値は2020年度の実績を採用。基本目標 5 の基準値は、2021年度の実績を採用。

<施策・事業評価【基本目標１】>

基本目標	指標の状況					2022年度の自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	実績値（2022年度）	評価	評価の理由
基本目標１ 多様な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実	文化芸術公演等の鑑賞や文化芸術活動への参加をしている市民の割合	20.2%	25.3%	20.7%	21.1%	□	新型コロナウイルス感染症の影響により入場制限を行う状況であるものの、文化芸術イベント等は数多く開催されるようになっている。指標の状況も、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため、□とした。
	文化施設利用者数	132,477人	409,270人	132,711人	258,344人	○	市内文化施設が改修工事により休館し、新型コロナウイルス感染症の影響により入場制限を行う状況であるものの、文化芸術イベント等は数多く開催されるようになっており、目標値に達するような回復傾向にあることから○とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標１　－　施策１）　優れた文化芸術の鑑賞・体験機会の提供　－　a　優れた文化芸術の鑑賞機会の充実

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業№	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和４年度 実施状況	令和４年度 自己評価	評価の理由	令和５年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
１－１）－a－①	弘前城新能開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）	p.42	－	観光部	文化振興課	文化都市弘前のさらなる発展の契機とするとともに、地域固有の文化財を活用し、若者を含む多くの市民が一流の伝統芸能に触れる機会とするもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　　0人 ②594/637席	①　　0人 ②594/637席	－					－	－	－	令和３年度に事業終了
１－１）－a－①	NHK全国放送公開番組開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）	p.42	－	観光部	文化振興課	市民に対し、NHKが制作する文化芸術番組の公開収録を開催することで、市の文化振興とPRを図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　517人 ②517/620席	①　517人 ②517/620席	①　354人 ②354/650席					新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約54%となった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約54%となったため、B評価とした。	令和５年度以降もNHKの開催募集に応募する予定（令和５年度は開催決定済）。
１－１）－a－②	宝くじ文化公演開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）	p.42	－	観光部	文化振興課	市民に対し、上質な音楽や演劇等を安価で提供して、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　　0人 ②618/637席	①　　0人 ②618/637席	－					－	－	－	令和５年度中に弘前文化センターで開催予定
１－１）－a－③	将棋名人戦弘前対局記念大会事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）	p.42	－	観光部	文化振興課	一流棋士を招へいし、指導対局や教室を行うことで一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	－	－	①142人 ②－					2日間に渡り、レベル別の将棋教室、プロ棋士による指導対局、クラス別の大会を開催し、有力選手の育成、将棋文化の活性化に役立てることができた。	A	昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったため比較対象がないが、事業計画書通りに遂行できたため、A評価とした。	令和４年度の実績を基準値とし、令和５年度以降も事業を継続する予定。
１－１）－a－④	弘前ダンスフェスティバル事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）	p.42	－	観光部	文化振興課	一流のダンサーを招へいし、ダンスフェスティバルを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	参加者数	305人	1,830人	2,772人					会場参加とオンライン参加の選択肢を設け、全国各地から参加者を集めることができた。	A	オンラインを活用して全国各地からの参加を実現し、事業目的を達成したため、A評価とした。	令和５年度以降もオンラインを活用した事業展開をする予定。
１－１）－a－⑤	児童文化研究サークル連合会事業費補助金	p.42	－	観光部	文化振興課	弘前市児童文化研究サークル連合会の技術研修の一環として実施される人形劇団ブークの公演を開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	－	－	①11人 ②38人					2演目を上演し、児童の情操教育の一環を担うことができ、会員の技術力、表現力の向上が図られた。	C	昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったため比較対象がないが、事業計画書にある入場者数見込み180名に届かなかったため、C評価とした。	令和４年度の実績を基準値とし、令和５年度以降も事業を継続する予定。
１－１）－a－⑥	弘前オペラ事業費補助金	p.42	－	観光部	文化振興課	弘前オペラを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/ 席総数	①　326人 ②326/584席	①　326人 ②326/584席	①　555人 ②601/852席					新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、例年通りの形態で事業を遂行した。	A	コロナ禍においても開催を実現し、市内小・中・高等学校生の無料招待をするなど事業目的を達成したため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
１－１）－a－⑦	弘前市民会館自主事業開催負担金	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前市民会館が自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	①2事業 ②44人	①2事業 ②44人	①3事業 ②84人					例年開催していたスタインウェイを演奏できる事業のほか、舞台のバックヤードツアーを行った。	A	前年度に企画していたスタインウェイを弾いてみよう！に加え、舞台のバックヤードツアーを行う事で次代の文化芸術活動を担う後継者の育成にも繋がったためA評価とした。	管理方法が市直営から指定管理者制度に変更となり自主事業の本数が増加予定（自主事業を17本開催予定）
１－１）－a－⑧	弘前市岩木文化センター文化事業開催負担金	p.42	－	観光部	文化振興課	弘前市岩木文化センターが自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	－	－	－					新型コロナウイルス感染症の影響もあり新たな委員の募集及び委員会の設立がされなかった。	－	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和５年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。
１－１）－a－⑨	弘前文化会館自主事業開催	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前文化センター指定管理者が自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	－	－	－					－	－	－	令和５年度からは、指定管理者が文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出が図られる自主事業を、年2～3事業実施する予定。
１－１）－a－⑩	弘前市民文化交流館指定事業及び自主事業開催	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前市民文化交流館指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	①　9事業 ②2,915人	①　3事業 ②　453人	①　9事業 ②2,737人					文化芸術に係る指定事業及び自主事業は17事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により8事業が中止となった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により約半数の事業が開催中止となったが、基準値と同等の事業を実施したことからB評価とした。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら開催する予定。 （令和５年度は、文化芸術に係る指定事業及び自主事業をおよそ15事業開催する計画）
１－１）－a－⑪	弘前市立百石町展示館指定事業及び自主事業開催	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前市立百石町展示館指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、文化芸術に触れる機会及び体験する機会の創出を図るもの。	①事業数 ②参加者数	①1事業 ②42人	①1事業 ②52人	①3事業 ②845人					当初計画では指定事業1事業のみの開催予定だったが、前年度実施することができなかった自主事業も含めて3件開催することができた。	A	新型コロナウイルス感染症の影響により指定事業1件自主事業2件のみの実施となったが、感染状況を見ながらも、自主事業の実施ができたためAとした。	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら開催する予定。 （令和５年8月1日時点で、自主事業1事業開催済）
１－１）－a－⑫	【新規】料金等の優遇措置の検討	p.42	－	観光部	文化振興課	子どもが文化芸術の鑑賞や文化芸術活動を行う際の入場料や参加料、施設使用料を優遇することで、若い世代が文化芸術に触れる機会の促進を図るもの。	－	－	－	－					－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

◆基本目標1 - 施策1) 優れた文化芸術の鑑賞・体験機会の提供 - b 郷土の歴史、美術工芸、民俗資料美術作品等の収集及び展示機会の充実

A:予定(計画)どおり実施した
B:おおむね予定(計画)どおり実施した
C:予定(計画)どおり実施できなかった
-:コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
1-1)-b-①	文化施設等の管理運営【博物館】	p.43	-	教育委員会	博物館	津軽の歴史、美術工芸等の資料の保全管理のほか、企画展、特別企画展を開催し、地域文化の向上を図るもの。	入館者数	14,094人	13,707人	26,751人					企画展3本、特別企画展2本を実施	A	計画どおり企画展・特別企画展を実施し、基準値及び昨年度実績を上回る入館者数となったことからA評価とした。	年間で企画展3～4本、特別企画展1～2本を実施予定
1-1)-b-②	文化施設等の管理運営【高岡の森弘前藩歴史館】	p.42	-	教育委員会	高岡の森弘前藩歴史館	高照神社に奉納された宝物を中心に、津軽・弘前の歴史・美術工芸資料を保存管理、展示公開し地域文化の向上を図るもの。	入館者数	6,959人	6,885人	6,662人					年4回の企画展を実施	B	新型コロナウイルスの影響による入館者数減少があったため。	令和5年度以降も事業継続予定。
1-1)-b-③	文化施設等の管理運営【郷土文学館】	p.43	-	教育委員会	生涯学習課(図書館)	郷土文学館の指定管理者が指定事業及び自主事業を開催することで、郷土出身作家等の文学作品などに触れる機会を提供するもの	総観覧者数	1,620人	2,075人	2,817人					新型コロナウイルス感染症の影響で、指定事業及び自主事業については定員を半減することで実施した。	B	指標である総観覧者数については、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響による休館もなく、前年度実績、基準値ともに上回ることができた。	令和5年度以降も毎年度事業計画を策定して実施予定。
1-1)-b-④	文化施設等の管理運営【弘前れんが倉庫美術館】	p.43	-	観光部	文化振興課	国内外の先進的なアートや、弘前の歴史・文化に関する作品を展示する企画展を年2回実施するとともに、スタジオ等を併設し、文化芸術活動を実施する場を提供。	①美術館来館者数 ②貸館業務利用件数	①26,542人 ②137件	①22,834人 ②329件	①47,819人 ②778件					煉瓦倉庫が美術館となるきっかけとなった過去の奈良展を振り返るドキュメント展をはじめ、年2回の展覧会を開催したほか、スタジオ等の稼働率向上を目指し、広報活動を実施した。	A	来館者数、貸館業務利用件数ともに基準値に比べて大幅に増加したため。	年2回の企画展の開催を継続していく。

基本目標1 - 施策2) 気軽に文化芸術に親しむことができる機会の提供 - a 文化芸術に気軽に触れることができる機会の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
1-2)-a-①	弘前市民文化祭共催負担金	p.43	-	観光部	文化振興課	市内の主要な文化芸術団体が委員となっている弘前市民文化祭実行委員会に対し負担金を交付することにより、市民文化祭の運営を支援し、市の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③入場者数	①27団体 ②5件 ③1,402人	①27団体 ②16件 ③5,592人	①25団体 ②24件 ③11,098人					令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催規模が縮小したが、今年度は参加団体のほとんどがイベントを開催することができた。	A	参加団体のほとんどがイベントを開催することができ、また基準値に比べて件数、入場者数ともに大幅に増加したため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
1-2)-a-②	岩木文化祭事業費補助金	p.43	-	観光部	文化振興課	岩木文化祭を開催することで、岩木地区の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③観覧者数	-	-	①18団体 ②10件 ③1,000人					岩木地区の伝統文化・伝統工芸の展示、文化芸術発表・ことも芸術発表など、広く交流が深められ、更には地区のPR及び文化・産業等の振興が図られた。 例年は2日間の開催日程であったが、1日に縮小して計画・開催した。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、規模を縮小しての開催となったことにより、観覧者数の落ち込みがあったため。 (参考：令和元年は延べ1,500人、平成30年度は延べ1,300人)	令和5年度以降も事業継続する予定。
1-2)-a-③	岩木文化祭事業支援	p.43	-	教育委員会	中央公民館 岩木館	岩木文化祭運営委員会が行う岩木文化祭を支援し、岩木地区の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③観覧者数	-	-	①18団体 ②10件 ③1,000人					例年は2日間の開催日程であったが、1日に縮小して計画・開催した。	B	規模を縮小しての開催となったが、3年ぶりに開催できたため。	令和5年度以降も事業継続する予定。
1-2)-a-④	相馬地区文化祭	p.43	-	教育委員会	中央公民館 相馬館	相馬地区文化祭を開催することで、相馬地区の文化振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③観覧者数	-	-	①5団体 ②- ③151人					新型コロナウイルス感染症予防対策の緩和により、「作品展示のみ」を開催した。	-	「作品展示のみ」の開催であるため、参加団体数、観覧者数ともに参考値でしかなく、評価対象外とした。	令和5年度以降も事業を継続する予定。 次回開催時の実績を指標とする。
1-2)-a-⑤	文化センターフェスティバル支援事業	p.43	-	教育委員会	中央公民館	弘前文化センターで活動する文化グループに日頃の活動の成果を発表する機会を提供することで、広く市民に活動への理解を深めていただくとともに市民の生涯学習活動の促進を図るもの。	参加者数	138人	138人	136人					例年弘前文化センターで開催していたが、弘前文化センター長寿命化改修工事に伴い、前年度に引き続き弘前市民文化交流館で1日のみに変更し代替事業を開催した。	A	弘前文化センター長寿命化改修工に伴い会場および会期を変更し代替事業を開催し、事業目的を達成することができたためA評価とした。	令和5年度以降は会場を従来の弘前文化センターに戻し、文化センターフェスティバルとして事業継続する予定。
1-2)-a-⑥	弘前市子どもの祭典支援事業	p.43	-	教育委員会	中央公民館	市民文化祭の一つとして、市内中学生・高校生で組織された子どもの祭典実行委員会のメンバーが子どもたちのために催しを企画・実行するもの。	来場者数	-	-	600人					新型コロナウイルスの影響で2年間中止となったが、令和4年度は3年振りに開催した。また、弘前文化センターの改修工事に伴い、岩木文化センター及び中央公民館岩木館を会場とした。	B	例年とは異なる場所で開催したが、子どもたちが楽しめるような企画・運営の支援をすることができたため、B評価とした。	主催団体である子どもの活動支援会で協議し、安全に子どもの祭典を開催できるよう支援します。
1-2)-a-⑦	公民館まつり(地区公民館)	p.43	-	教育委員会	中央公民館	地区公民館(12館)の状況に応じた公民館まつりを開催することにより、地域住民の文化芸術活動等の学習成果発表と交流、親交を深める機会の創出を図るもの。	①実施公民館数 ②開催日数 ③参加者数	①2館 ②8日 ③256人	①2館 ②9日 ③276人	①5館 ②34日 ③2,208人					新型コロナウイルス感染症の影響により、半数以上の地区公民館が開催を見送った。	B	地区公民館12館のうち、5館が開催しており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい内容に限定して実施したものの、基準値より増加したため、B評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
1-2)-a-⑧	【新規】地域のイベントと連携した文化芸術事業の検討	p.43	-	観光部	文化振興課	集客の見込める四大まつりなど、地域のイベント等と連携した文化芸術事業を展開することで、弘前の文化芸術の魅力を市内外の多くの人々が触れられる機会の創出を図るもの。	-	-	-	-					-	-	-	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

基本目標1 - 施策3) 文化芸術イベントに関する情報発信 - a 文化芸術イベントに関する情報の収集と効果的な発信

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
1-3)-a-①	【新規】情報の収集・登録・活用に係る仕組みづくりの検討	p.43	-	観光部	文化振興課	文化芸術団体の活動情報を広く発信できる仕組みを構築することで、市民の文化芸術活動への興味関心を高め、活動への参加を促進するもの。	-	-	-	-					文化芸術推進審議会において、文化芸術の課題に対応するために文化芸術ポータルサイトの構築の必要性を議論した。	-	-	審議会において、ポータルサイト構築の審議を経て、予算要求する予定。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
○：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
1－4）－a－①	文化施設等の管理運営【弘前市民会館】	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前市民会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	86.4%	88.3%	88.8%					施設についての9項目の満足度について、令和4年度は7,686の回答数があり、うち88.8%が良いと回答した。	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用控えがあった中で、多くのアンケートの回答を得ることができ、結果として昨年度を上回る評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1－4）－a－②	文化施設等の管理運営【弘前文化会館】	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前文化会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	－	－	－					施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績はなかった。	－	施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績がなく、評価対象外とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1－4）－a－③	文化施設等の管理運営【弘前市民文化交流館】	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前市民文化交流館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	91.4%	91.4%	92.7%					「施設についての総合的な満足度」について、令和4年度は477の回答数があり、うち92.7%が満足・やや満足と回答した。	A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用休止があった中で、多くのアンケート回答を得ることができ、結果として90%以上の方から施設に対して満足している旨の評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1－4）－a－④	文化施設等の管理運営【弘前市立百石町展示館】	p.43	－	観光部	文化振興課	弘前市立百石町展示館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	75.0%	－	72.5%					施設についての4項目の満足度について、令和4年度はの40の回答数があり、うち72.5%が良いと回答した。	－	今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の一環として施設利用者のアンケート実施を見送り自主事業、指定事業のみの実施とし、参考値に過ぎないため評価対象外とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
1－4）－a－⑤	文化施設等の管理運営【岩木文化センター】	p.43	－	観光部	文化振興課	岩木文化センターの管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	97.9%	93.7%	100.0%					新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため施設休止の期間はあったが、施設利用者（主催者）からの有効回答における満足度は、100%となっていることからA評価とした。	A	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため施設休止の期間はあったが、施設利用者（主催者）からの有効回答における満足度は、100%となっていることからA評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。

< 施策・事業評価【基本目標2】 >

基本目標	指標の状況					2022年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	実績値（2022年度）	評価	評価の理由
基本目標2 文化芸術活動の活性化	市民文化祭や一流芸術文化イベント等の参加者数及び鑑賞者数	2,459人	19,434人	9,684人	16,721人	○	新型コロナウイルス感染症の影響により入場制限を行う状況であるものの、文化芸術イベント等は数多く開催されるようになってい る。制限のある中での開催ではあったものの目標値の8割程度まで回復してきたことから○とした

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標2　－　施策1）　市民の主体的な文化芸術活動に対する支援　－　a　市民文化祭の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2－1）－a－①	弘前市民文化祭共催負担金（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	市内の主要な文化芸術団体が委員とな っている弘前市民文化祭実行委員会 に対し負担金を交付することにより、 市民文化祭の運営を支援し、市の文化 振興を図るもの。	①参加団体数 ②開催イベント数 ③入場者数	① 27団体 ② 5件 ③1,402人	① 27団体 ② 16件 ③5,592人	①25団体 ②24件 ③11,098人				昨年度は新型コロナウイルス感染症 の影響により開催規模が縮小した が、今年度は参加団体のほとんどが イベントを開催することができた。	A	参加団体のほとんどがイベントを 開催することができ、また基準値 に比べて件数、入場者数ともに大 幅に増加したため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
2－1）－a－②	弘前市社会教育協議会事業費補助金	p.45	－	観光部	文化振興課	弘前市社会教育協議会の活動を補助す ることで、弘前市民文化祭の事務を支 援し、市の文化振興を図るもの。	遂行した補助事業数	4事業	4事業	4事業				社会教育団体に対して、計画どおり ①連絡調整②団体育成③活動推進④ 活動支援の4事業を遂行した。	A	計画どおり4事業を遂行し、社会 教育団体を補助することで市の社 会教育を振興するという目的を達 成したため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
：コロナ等不可抗力により実施できなかった

◆基本目標2　－　施策1）　市民の主体的な文化芸術活動に対する支援　－　b　補助金や後援などによる活動支援

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2－1）－b－①	文化グループの支援・育成事業	p.45	－	教育委員会	中央公民館	弘前文化センターで活動する文化グ ループを支援（活動場所、発表機会の 提供等）することで、市民の生涯学習 活動の促進を図るもの。	グループ加入者数	263人	219人	194人				弘前文化センター長寿命化改修工事 に伴う代替活動場所の調整や文化セ ンターフェスティバルの代替事業開 催等の支援を計画通り実施した。	B	グループに対する支援は計画通り 行われたが、グループの高齢化等 に伴い加入者数が減少したため、 B評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
2－1）－b－②	弘前市文化団体協議会事業費補助金	p.45	－	観光部	文化振興課	弘前市文化団体協議会の活動を補助す ることで、弘前市文化功労賞の表彰や 美術展等の事業を支援し、市の文化振 興を図るもの。	遂行した補助事業数	3事業	3事業	2事業				新型コロナウイルス感染症の影響に より、講演会が実施できず、2事業 の実施となった。	B	コロナ禍においても計画していた 3事業中1事業が中止となったもの の、芸術文化団体相互の交流を深 め、市の文化芸術の振興を図る という目的は達成できたためB評価 とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
2－1）－b－③	岩木文化協会補助金	p.45	－	観光部	文化振興課	岩木文化協会の活動を補助すること で、岩木文化祭や春の文化芸能祭等の 事業を支援し、岩木地区の文化振興を 図るもの。	遂行した補助事業数	2事業	2事業	4事業				新型コロナウイルス感染症の影響 で、計画していた「献本運動」が実 施できず、「2022岩木文化祭」、 「春の芸能文化祭」ほか4事業の遂 行にとどまった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響 により、計画通りの実施ができな かったものの、計画にある5事業 のうちおおむね実施することがで きたため。	令和5年度以降も事業継続する予定。
2－1）－b－④	市民参加型まちづくり1％システム支援事業	p.45	－	市民生活部	市民協働課	個人市民税の1％相当額を財源に、市 民自らが実践するまちづくり、地域づ くり活動に係る経費の一部を補助金の 交付により支援するもの。	補助金交付事業数	48事業	45事業	49事業				コロナ禍ではあったが、多くの団体 は感染対策を適切に講じながら事業 を実施した。 市民活動の裾野を広げるための新規 事業者向けの「スタート部門」につ いては8件採択された。	A	前年度は新型コロナウイルス感染 症の影響により事業を中止した り、規模を縮小した事業もあつた が、令和4年度は感染対策を適切 に講じながら事業を実施できたた め、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
2－1）－b－⑤	【新規】市民主体の文化芸術活動に対する新たな支 援の枠組みの検討	p.45	－	観光部	文化振興課	文化芸術団体だけでなく、個人で活動 する市内の芸術家等に対して支援する ことで、地域の新たな文化芸術の担い 手の育成を図るもの。	－	－	－	－				－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立て る予定。

基本目標2　－　施策1）　市民の主体的な文化芸術活動に対する支援　－　c　活動支援体制の構築

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2－1）－c－①	【新規】中間支援に係る事業等の検討	p.45	－	観光部	文化振興課	多様な文化芸術団体の情報を集約し、 団体の活動の中間支援や活動の支援・ 連携のコーディネートを行うことで、 さらなる文化芸術活動の活性化を図 るもの。	－	－	－	－				－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立て る予定。

基本目標2　－　施策2）　文化芸術活動の場の提供　－　a　公共施設の利用促進

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2－2）－a－①	【新規】文化芸術活動の場としての小・中学校や社 会教育施設等の活用	p.45	－	観光部	文化振興課	学校や社会教育施設と連携して文化芸 術団体が利用できる公共施設を増やし ていくことで、文化芸術活動の場の拡 充を図るもの。	－	－	－	－				－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立て る予定。

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2-2)-b-①	文化施設等の管理運営【弘前市民会館】（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	弘前市民会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	86.4%	88.3%	88.8%					A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用控えがあった中で、多くのアンケートの回答を得ることができ、結果として昨年度を上回る評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-②	文化施設等の管理運営【弘前文化会館】（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	弘前文化会館の管理運営を行うことで、一流の文化芸術に触れる場や市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	—	—	—					—	施設の長寿命化改修工事（～令和4年度）による一時閉鎖のため、実績はなかった。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-③	文化施設等の管理運営【弘前市民文化交流館】（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	弘前市民文化交流館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	91.4%	91.4%	92.7%					A	今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により施設の利用休止があった中で、多くのアンケート回答を得ることができ、結果として90%以上の方から施設に対して満足している旨の評価を得ていることから、A評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。
2-2)-b-④	文化施設等の管理運営【弘前市立百石町展示館】（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	弘前市立百石町展示館の管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	75.0%	—	72.5%					—	施設についての4項目の満足度について、令和4年度は40の回答数があり、うち72.5%が良いと回答した。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート実施を見送ったため、評価対象外とした。
2-2)-b-⑤	文化施設等の管理運営【岩木文化センター】（再掲）	p.45	○	観光部	文化振興課	岩木文化センターの管理運営を行うことで、市民の文化芸術活動や発表の場を守るもの。	利用者満足度	97.9%	93.7%	100.0%					A	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため施設休止の期間はあったが、施設利用者（主催者）からの有効回答における満足度は、100%となっていることからA評価とした。	弘前市文化施設個別施設計画やアンケート結果を踏まえて、計画的かつ効率的な施設の維持管理を実施していく。

基本目標2 - 施策3) 文化芸術団体の活動等に関する情報発信の支援 - a 文化芸術団体に関する情報の収集と効果的な情報発信

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2-3)-a-①	【新規】情報の収集・登録・活用に係る仕組みづくりの検討（再掲）	p.46	○	観光部	文化振興課	文化芸術団体の活動情報を広く発信できる仕組みを構築することで、市民の文化芸術活動への興味関心を高め、活動への参加を促進するもの。	—	—	—	—					—	文化芸術推進審議会において、文化芸術の課題に対応するために文化芸術ポータルサイトの構築の必要性を議論した。	審議会において、ポータルサイト構築の審議を経て、予算要求する予定。

基本目標2 - 施策4) 障がい者等の文化芸術活動の促進 - a 誰もが活発に活動・参加できる環境づくり

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
2-4)-a-①	【新規】文化施設の機能向上	p.45	—	観光部	文化振興課	文化施設運営者と連携して施設の機能の改善を図ることで、誰もが文化芸術に親しめる環境の整備を図るもの。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。
2-4)-a-②	【新規】各種施設へのアウトリーチ事業の検討	p.46	—	観光部	文化振興課	保育施設や障がい者施設、高齢者施設等での文化芸術イベントの開催を支援することで、文化芸術に触れる機会の充実を図るもの。	—	—	—	—					—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。
2-4)-a-③	障がい者福祉展、総合福祉作品展	p.46	—	福祉部	障がい福祉課	障がい者週間（12月3日から12月9日まで）に、障がい児・者の方の作品展示を実施し、より多くの方に作品に触れる場を創出するとともに、共生社会を推し進める様々な活動のきっかけをつくることを目的に開催するもの。	作品数	18作品	6作品	—					—	—	令和5年度以降も事業継続する予定。

< 施策・事業評価【基本目標3】 >

基本目標	指標の状況					2022年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	実績値（2022年度）	評価	評価の理由
基本目標3 次代の文化芸術を担う人材の育成	後継者育成のための講習会等への参加者数	190人	790人	170人	446人	○	後継者育成事業は開催されたものの、指導者を都市圏から招聘することが多く、新型コロナウイルス感染症の影響により制限のある中での開催となった。目標値には達しなかったが、前年度に比べ、2.5倍の人数となったことから○とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標3　－　施策1）　子どもや若者に対する文化芸術を体験する機会の充実　－　a　文化芸術の鑑賞・体験機会の提供と支援

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）			
3－1）－a－①	子ども観劇・演劇ワークショップ事業	p.47	－	教育委員会	中央公民館	子ども達が優れた舞台芸術を鑑賞することにより情操を養う機会とするもの。また、中学校演劇部等に対し公演劇団による演劇指導を実施し、技術力の向上を図るもの。	①児童劇対象学年数 ②演劇ワークショップ参加者満足度	①1学年 （3年生） ②66.7%	①1学年 （5年生） ②100%	①1学年 （5年生） ②100%				児童劇は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、令和3年度に引き続き対象学年は1学年とした。また、演劇ワークショップの事後アンケートにおいて、全員が「今後の参考になった」と回答した。	A	コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら事業を実施することができ、かつ、演劇ワークショップに参加した中学生全員にとって今後の参考になる事業内容となったため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
3－1）－a－②	アーティスト体験ワークショップ事業	p.47	－	教育委員会	中央公民館	芸術文化への興味・関心を持たせ、子どもたちの資質や能力を育むことを目的に多様な芸術文化をワークショップ形式で体験できるイベントを開催するもの。	①延べ参加者数 ②協力団体数	①274人 ②8団体	①309人 ②10団体	①419人 ②11団体				新型コロナウイルス感染症対策として、事前予約制としたが、絶やすことなく、継続的に事業を実施したことで芸術文化を支える裾野の拡大に寄与できたため、B評価とした。	B	新型コロナウイルス対策として、事前予約制としたが、絶やすことなく、継続的に事業を実施したことで芸術文化を支える裾野の拡大に寄与できたため、B評価とした。	令和4年度の参加者アンケート結果より、参加者が興味を持っている芸術文化を取り入れ、より多くの子どもたちが芸術文化を体験をできるようにする。
3－1）－a－③	音楽芸術後継者育成事業	p.47	－	観光部	文化振興課	各音楽団体が行う後継者育成事業に対して経費の一部を助成することで、次代を担う若手演奏者の育成を図るもの。	①育成イベント参加者数 ②スクール・コンサート実施校数 ③楽譜別講習DVD配付団体数	①20人 ②7校 ③16団体	①20人 ②7校 ③16団体	①214人 ②12校 ③－				令和4年度は、ドリームコンサート・ドリムゼミナール事業、弘前ユーストリングアンサンブル指導者招へい事業、弘前音楽祭事業、吹奏楽公演招致事業の4事業全てを実施した。一部新型コロナウイルス感染症の影響により実施を中止したイベントがあった。	B	各事業において一部実施できなかったイベントがあったものの、若手演奏家の育成を図るという目的は達成できたことからB評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
3－1）－a－④	全国高等学校ファッションデザイン選手権大会等事業	p.47	－	商工部	産業育成課	全国高等学校ファッションデザイン選手権大会事業を中心にファッションを通じた地域活性化及びファッション業界での活躍を志す若者の機運向上を図るもの。	応募総数	35都道府県 95校 1,299チーム 2,248校	35都道府県 95校 1,299チーム 2,248校	35都道府県 83校 1,224チーム 2,108校				令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を確認しながら、オンラインを活用しつつ有観客で実施。	A	新型コロナが蔓延するなか、有観客とオンラインを活用して開催したことで、学生及び教員からは感謝の声が多く寄せられ、事業目的を達成したと思われるため、A評価とした。	コロナ禍以前の規模に戻し、有観客で開催し、ライブ配信も実施予定。開催後の学生同士の交流会も再開予定。

◆基本目標3　－　施策1）　子どもや若者に対する文化芸術を体験する機会の充実　－　b　特色のある伝統文化に触れる機会の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)					2026年度 (実績)
3-1)-b-①	ひろさき刊(まんじ)学事業	p.47	-	教育委員会	学校指導課	各市立小・中学校において、弘前の「ひと・もの・こと」を題材に、地域への誇りや愛着を持つ心を涵養することを目的として取り組んでいる郷土学習。	-	-	-	-	-	-	-	-	各学校では、各教科・学校行事の中で、地域資源を生かした郷土学習を展開した。また、弘前ねふた300年祭実行委員会と連携した取り組みも実施した。	-	学校の教育活動として行われており、指標を設定することは学校活動を左右することから評価対象外とする。	令和5年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-②	伝統文化学習講座	p.47	-	教育委員会	中央公民館 岩木館	子どもたちが地域の伝統工芸や文化・歴史にふれ、その良さを認識し、理解を深めるとともに地域に対する愛着と誇りを育む。	延べ派遣回数	98回	104回	100回					新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、当初の計画から派遣回数は減少したが若木地区内の小中学校へ講師を派遣できた。	A	派遣回数は減少したものの、子どもたちが伝統芸能・文化に触れる機会の確保は概ねできたことからA評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-③	地域でまなぼう！食育講座いただきます	p.47	-	教育委員会	中央公民館	食に関する正しい知識や判断力、健全な食習慣を育成するとともに、地域交流の推進と活性化を図るもの。	参加者満足度	94.4%	94.3%	88.9%					事業参加者への事後アンケートにて、88.9%が講座内容に満足と回答した。	A	参加者満足度が前年度と比べ減少したが依然水準は高く、コロナ禍においても講座を実施することができたため、A評価とした。	5年度以降も事業を継続する予定。
3-1)-b-④	地域産業魅力体験事業	p.47	-	商工部	産業育成課	市内の小・中学生を対象に、地元生産品に触れて、知って学ぶことで、豊かな感性や価値観を育み、優れた技能・技術を次の時代に伝えていくことを目指し、当市工芸品の製作体験や工場見学を実施する。		① 4校 ②258人	① 9校 ②297人	①10校 ②282人					令和4年度は新型コロナウイルスの影響を受けずに、予定どおりの日程及び学校で製作体験を実施することができた。	A	令和2年度及び3年度は中止や延期など新型コロナウイルスの影響を受けたが、令和4年度は全て予定どおりに行うことができ、実施校からの評判も高かったためA評価とした。	令和5年度は、伝統工芸品の製作体験および工場見学会を10校358人について実施する予定。
3-1)-b-⑤	りんご公園生産・管理費	p.48	-	農林部	りんご課	りんごに関する学習の場の提供	①来園者数 ②農作業体験者数	①58,665人 ② 6,951人	①58,143人 ② 6,775人	①83,085人 ②9,894人					新型コロナウイルス感染症の規制緩和により、来場者数が感染拡大前に戻りつつあった中で、計画どおり実施できた。	A	規制緩和に伴い、受入環境の整備や集客等、迅速に対応し、来場者数・農作業体験者数ともに増加したため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
3-1)-b-⑥	青森県りんご基幹青年養成事業	p.48	-	農林部	りんご課	りんご農家の後継者等を対象に、生産技術及び経営、経済、農政などの基礎教育を行い、それぞれの地域において、中核的役割を果たす人材を養成するもの。(2ヶ年事業)	参加研修生/募集人員	23名/24名	23名/24名	22名/23名					基礎知識を一部復習しながら、応用を織り交ぜて実践的学習を実施。新型コロナウイルス対策を行いつつ、県内研修を実施した。	A	コロナ禍により、一部制限をかけた上での受講メニューとなったが、予定していた全メニューを消化することができたため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。

◆基本目標3 - 施策2) 文化芸術に資する人材育成の推進 - a 後継者育成と新しい文化創造への支援

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)					2026年度 (実績)
3-2)-a-①	音楽芸術後継者育成事業（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	各音楽団体が行う後継者育成事業に対して経費の一部を助成することで、次代を担う若手演奏者の育成を図るもの。	①育成イベント参加者数 ②スクール・コンサート実施校数 ③楽器別講習DVD配付団体数	① 20人 ② 7校 ③16団体	① 20人 ② 7校 ③16団体	①214人 ②12校 ③—					令和4年度は、ドリームコンサート・ドリームゼミナール事業、弘前ユーストリングアンサンブル指導者招へい事業、弘前音楽祭事業、吹奏楽公演招致事業の4事業全てを実施した。一部新型コロナウイルス感染症の影響により実施を中止したイベントがあった。	B	各事業において一部実施できなかったイベントがあったものの、若手演奏家の育成を図るという目的は達成できたことからB評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。
3-2)-a-②	NHK全国放送公開番組開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	市民に対し、NHKが制作する文化芸術番組の公開収録を開催することで、市の文化振興とPRを図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/席総数	① 517人 ②517/620席	① 517人 ②517/620席	① 354人 ②354/650席					新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約54%となった。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、通常より席総数を約半分にして開催することとなったが、集客率は約54%となったため、B評価とした。	令和5年度以降もNHKの開催募集に応募する予定（令和5年度は開催決定済）。
3-2)-a-③	宝くじ文化公演開催事業（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	市民に対し、上質な音楽や演劇等を安価で提供して、地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/席総数	① 0人 ②618/637席	① 0人 ②618/637席	—					—	—	—	令和5年度中に弘前文化センターで開催予定
3-2)-a-④	将棋名人戦弘前対局記念大会事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	一流棋士を招へいし、指導対局や教室を行うことで一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	—	—	①142人 ②—					2日間に渡り、レベル別の将棋教室、プロ棋士による指導対局、クラス別の大会を開催し、有力選手の育成、将棋文化の活性化に役立てることができた。	A	昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったため比較対象がないが、事業計画通りに遂行できたため、A評価とした。	令和4年度の実績を基準値とし、令和5年度以降も事業を継続する予定。
3-2)-a-⑤	弘前ダンスフェスティバル事業費補助金（一流芸術等文化イベント開催事業）（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	一流のダンサーを招へいし、ダンスフェスティバルを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	参加者数	305人	1,830人	2,772人					会場参加とオンライン参加の選択肢を設け、全国各地から参加者を集めることができた。	A	オンラインを活用して全国各地からの参加を実現し、事業目的を達成したため、A評価とした。	令和5年度以降もオンラインを活用した事業展開をする予定。
3-2)-a-⑥	児童文化研究サークル連合会事業費補助金（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	弘前市児童文化研究サークル連合会の技術研修の一環として実施される人形劇団ブークの公演を開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①参加者数 ②観覧者数	—	—	①11人 ②38人					2演目を上演し、児童の情操教育の一端を担うことができ、会員の技術力、表現力の向上が図られた。	C	昨年度は新型コロナウイルスの影響で開催できなかったため比較対象がないが、事業計画書にある入場者数見込み180名に届かなかったため、C評価とした。	令和4年度の実績を基準値とし、令和5年度以降も事業を継続する予定。
3-2)-a-⑦	弘前オペラ事業費補助金（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	弘前オペラを開催することで、一流に触れる機会の創出と当市の文化振興を図るもの。	①観覧者数 ②チケット販売席数/席総数	① 326人 ②326/584席	① 326人 ②326/584席	① 555人 ②601/852席					新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、例年通りの形態で事業を遂行した。	A	コロナ禍においても開催を実現し、市内小・中・高等学校生の無料招待をするなど事業目的を達成したため、A評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。

◆基本目標3 - 施策2) 文化芸術に資する人材育成の推進 - b 顕彰制度の充実

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)					2026年度 (実績)
3-2)-b-①	弘前市文化奨励賞	p.48	—	観光部	文化振興課	文化芸術の分野において優れた成績を挙げた弘前市内の小・中・高等学校等の児童・生徒を表彰することで、今後の文化芸術活動の奨励を図るもの。	—	—	—	—	—	—	—	令和4年度は12名の推薦があり、うち10名を受賞者として表彰を行った。	A	コロナ禍ではあるが、感染防止対策を施したうえで、受賞者の家族も招待して表彰式を開催することができた。	令和5年度以降も引き続き表彰を行っていく予定である。	
3-2)-b-②	弘前市文化団体協議会事業費補助金（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	弘前市文化団体協議会の活動を補助することで、弘前市文化功労賞の表彰や美術展等の事業を支援し、市の文化振興を図るもの。	遂行した補助事業数	3事業	3事業	2事業					新型コロナウイルス感染症の影響により、講演会が実施できず、2事業の実施となった。	B	コロナ禍においても計画していた3事業中1事業が中止となったものの、芸術文化団体相互の交流を深め、市の文化芸術の振興を図るという目的は達成できたためB評価とした。	令和5年度以降も事業継続する予定。

◆基本目標3 - 施策2) 文化芸術に資する人材育成の推進 - c 文化施設等の専門的人材の配置・育成

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画	
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)					2026年度 (実績)
3-2)-c-①	指定管理者が行う専門的人材の育成事業	p.48	○	観光部	文化振興課	舞台技術者など、文化施設等の運営に必要となる専門的人材の育成を、指定管理者と連携して行うことにより、文化施設等の安定的な管理運営を図るもの。	講習参加人数	—	—	—					新型コロナウイルス感染症の影響により、開催中止となった。	—	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となったため、評価対象外とした。	令和5年度以降も新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて開催可否を判断する。 次回開催時の実績を指標とする。

◆基本目標3 - 施策2) 文化芸術に資する人材育成の推進 - d 活動支援体制の構築（再掲）

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 (実績)	2022年度 (実績)	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (実績)	2026年度 (実績)				
3-2)-d-①	【新規】中間支援に係る事業等の検討（再掲）	p.48	○	観光部	文化振興課	多様な文化芸術団体の情報を集約し、団体の活動の中間支援や活動の支援・連携のコーディネートを行うことで、さらなる文化芸術活動の活性化を図るもの。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。	

< 施策・事業評価【基本目標4】 >

基本目標	指標の状況					2022年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	実績値（2022年度）	評価	評価の理由
基本目標4 市民が誇れる文化財の継承	郷土弘前の歴史と文化遺産に親しみを感じている市民の割合	63.6%	67.9%	65.6%	66.4%	□	指標の状況が、基準値と比べ増加傾向にあるものの、目標値に達していない状況であるため、□とした。
	文化財の公開・活用イベント等に参加したことのある市民の割合	20.6%	24.0%	23.7%	24.4%	○	新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止していたの文化財の公開・活用イベント等の開催が徐々に回復傾向となり、参加者も増加している状況。 指標の状況も、目標値を上回っているため、○とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標4　－　施策1）　文化財の公開・活用と後継者育成　－　a　文化財の公開・活用

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
4－1）－a－①	弘前城本丸石垣整備事業	p.49	－	都市整備部	公園緑地課	弘前城本丸石垣整備事業に伴い、関連イベント等を実施する。	①イベント開催日数 ②イベント参加人数 （日平均）	① 2日 ②240人	① 7日 ②240人	① 2日 ②413人					多くの観光客が滞在する弘前ねぶたまつり期間内の土日2日間で実施した。	B	読み通り来園者自体が多かったこともあり、コロナ禍ながら1日あたりのイベント参加者は大幅に増加した。	弘前ねぶたまつり期間内の土日と文化の日、年間で3日間実施する予定。
4－1）－a－②	文化財施設公開事業	p.49	－	教育委員会	文化財課	公開武家住宅（旧伊東家・旧梅田家・旧岩田家・旧笹森家）、瑞楽園、旧藤田家住宅、旧第五十九銀行本店本館、旧弘前市立図書館及び東照宮本殿を公開します。また、文化財に触れる機会を増やすため、指定管理者等と協力して様々なイベントを展開します。併せて、市民を対象に文化財保護意識の醸成を目的として、出前講座「弘前の文化財」を開催します。	入場者数	18,252人	30,041人	58,698人					○施設公開 旧伊東家住宅（通年）、旧梅田家住宅（4月～11月）、旧岩田家住宅（通年）、旧笹森家住宅（通年）、瑞楽園（4月～11月）、旧市立図書館（通年）、旧藤田家住宅（通年）、東照宮本殿（通年）、旧第五十九銀行本店本館（通年） ○出前講座「弘前の文化財」開催　3回	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、入場者数が伸びなかったが、令和2年度～3年度に比べると回復傾向にある。	引き続き、施設の公開や指定管理者と協力して文化財に触れるイベントを開催する。
4－1）－a－③	史跡等公開活用事業	p.49	－	教育委員会	文化財課	大森勝山遺跡や堀越城跡の遺跡見学会、歴史を探究するシンポジウムの開催、小学校出前授業、学区内の文化財を調査し、市民に紹介する文化財探訪・紹介マップ事業の開催などを実施する。	参加者数	1,449人	308人	2,276人					小学校史跡見学会、堀越城秋まつり、ひろさき歴史体感ツアー、まいがん講座、小学校出前授業などを実施。	A	2022年度では、市内小学校児童の史跡見学の機会を増やしたことにより、基準値の1.5倍を超える見学者・参加者となった。	引き続き、史跡等見学の機会を増やしつつ、各事業を展開していきたい。
4－1）－a－④	世界遺産登録推進事業	p.49	－	教育委員会	文化財課	「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録のため、青森県等で組織する縄文遺跡群世界遺産登録推進本部と共に登録に向けた取組を行う。	世界遺産登録	－	世界遺産登録達成	登録達成につき事業廃止					2021年度に目標達成（世界遺産登録）のため令和4年3月付で事業廃止。	－		
4－1）－a－⑤	大森勝山遺跡公開活用事業	p.49	－	教育委員会	文化財課	大森勝山遺跡の保存と整備を進めるとともに、子どもたちや市民への遺跡や縄文文化への理解を図るため、各種事業を実施する。	整備進捗率	31.6%	46.2%	51.6%					整備事業として説明板等整備工事を実施した。 公開活用事業として大森勝山じょうもん祭りやちびっこ縄文講座などを実施した。	A	2022年度で史跡本体の整備が終了。2023年度以降は受け入れ態勢整備を進めていく。	2023年度にガイダンス整備に係る基本設計及び実施設計を策定する。
4－1）－a－⑥	古文書デジタル化推進事業	p.49	－	教育委員会	生涯学習課（図書館）	古文書・古絵図等古典籍をデジタル化し、WEB公開し広く利活用を図り、文化・産業・観光面での二次活用を促進させ、学校教育及び地域の文化活動を支援します。	①古文書等のデジタル化公開数 ②古文書読み方講座の開催	①692冊 ② 4回	①705冊 ② 0回	①709冊 ② 4回					対象古文書等63,039点のうち、蒲帘日記を709冊公開した。進捗率は3.37%である。古文書読み方講座は4回開催し、延べ55名参加。	B	古文書デジタル化は、撮影から公開まで順調に実績が積み上がり、古文書読み方講座は概ね計画通り実施できた。	令和5年度中にデジタル化基本計画（第2期）の策定を目指し、この計画に沿ってデジタル化と公開等を進めていく。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

事業No.	事業名	計画書 ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標								令和4年度 実施状況	令和4年度 自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度 （実績）	2022年度 （実績）	2023年度 （実績）	2024年度 （実績）	2025年度 （実績）	2026年度 （実績）				
4－2）－a－①	重要文化財等修理事業補助	p. 50	－	教育委員会	文化財課	重要文化財の保存修理及び防災設備の設置を進める。所有者が個人の場合は保存修理等の費用を補助する		－	－	－	－	－	－	－	重要文化財誓願寺山門保存修理事業及び木村産業研究所防災設備設置事業に対して補助金を交付した。	B	計画どおり保存修理事業及び防災設備設置事業に対して補助金を交付することができた。	今後も重要文化財の適正な維持管理を進める。
4－2）－a－②	指定文化財管理事業補助	p. 50	－	教育委員会	文化財課	重要文化財建造物及び名勝等庭園を維持するため、所有者が行う防災設備保守点検や除排雪等の経費、庭園維持管理経費を補助する。	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	重要文化財建造物の防災設備保守点検及び除排雪　11件（うち2件は小修理も実施） 名勝等庭園の維持管理　3件	B	消防設備点検及び維持管理を計画通り実施することができた。	今後も重要文化財建造物及び名勝等庭園の適切な維持管理を進めていく。
4－2）－a－③	伝統的建造物群保存地区修理修景事業補助	p. 50	－	教育委員会	文化財課	地区住民が行う伝統的建造物等の修理修景に対し補助を行う。	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	伝統的建造物屋根修理　1件 サワラ生垣修理　1件 庭園整備　1件	B	仲町伝統的建造物群保存地区の歴史的風致の維持・向上のため、修理修景事業への補助を行った。	修理修景事業は伝建制度の根幹であることから、引き続き、伝統的建造物等の所有者と協議しながら、計画的に補助事業を進める。
4－2）－a－④	伝統的建造物群保存地区保存計画及び防災計画見直し事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	歴史的風致の維持・向上が図られるよう、保存計画や現状変更許可基準の見直しを行う。防災計画については、総合的な防災対策の実現に向け新たな防災計画を策定する。	新計画の策定を目的とした事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	令和3年度から行っていた防災計画見直し調査が完了し、調査結果をまとめた報告書を作成した。	B	2ヶ年に及ぶ見直し調査結果を取りまとめ、予定通り年度内に報告書を刊行した。	報告書に基づき、地区住民や関係機関等と協議しながら新たな防災計画を策定する。
4－2）－a－⑤	津軽塗技術保存伝承事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	津軽塗の調査・研究を通じた技術研鑽と、後継者育成に係る経費の一部を補助し、後継者育成に係る研修や津軽塗技術及び作品に係る普及啓発を図るための拠点として旧紺屋町消防屯所を有効活用する。	旧紺屋町消防屯所の維持管理費用及び1団体への補助金交付のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	旧紺屋町消防屯所維持管理（機械整備、消防設備点検等）の実施、津軽塗技術保存伝承事業費補助金の交付	B	施設の適切な維持管理を行い、補助金を交付することができた。	今後も施設の適切な維持管理に努めながら、津軽塗の技術研鑽、後継者育成を支援していく。
4－2）－a－⑥	市有漆林管理事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	国産漆の安定供給を図るため、持続可能かつ適正な漆林の維持管理を行う。	本事業は漆林の維持管理業務であり、かつ漆採取についても、資源保護のため毎年度の実施が困難であるため指標の設定は困難。	－	－	－	－	－	－	－	漆林の適正な維持管理を目的に、下草刈り・薬剤散布・間伐といった各種作業を実施した。	B	国庫補助金を活用し、事業計画とおり維持管理業務を実施できた。	引き続き、国庫補助金を活用しながら維持管理業務を実施する。
4－2）－a－⑦	無形民俗文化財用具修理事業	p. 50	－	教育委員会	文化財課	活動に必要な用具の修理や更新の経費の一部を補助する。	間接補助事業のため指標の設定不可	－	－	－	－	－	－	－	県指定無形民俗文化財用具修理1件　66千円 市指定無形民俗文化財用具修理1件　2,248千円	B	用具修理を計画通り実施することができた。	今後も各保存団体から用具修理計画の聞き取りを実施し、計画的に用具修理を進めていく。
4－2）－a－⑧	大森勝山遺跡公開活用事業（再掲）	p. 50	○	教育委員会	文化財課	大森勝山遺跡の保存と整備を進めるとともに、子どもたちや市民への遺跡や縄文文化への理解を図るため、各種事業を実施する。	整備進捗率	31.6%	46.2%	51.6%					整備事業として説明板等整備工事を実施した。 公開活用事業として大森勝山じょうもん祭りやちびっこ縄文講座などを実施した。	A	2022年度で史跡本体の整備が終了。2023年度以降は受け入れ態勢整備を進めていく。	2023年度にガイダンス整備に係る基本設計及び実施設計を策定する。

< 施策・事業評価【基本目標5】 >

基本目標	指標の状況					2021年度自己評価	
	指標の名称	基準値	目標値（2026年度）	実績値（2021年度）	実績値（2022年度）	評価	評価の理由
基本目標5 文化芸術を活かしたまちづくり	文化芸術が市の観光振興や産業振興などまちづくりに活用されていると感じる市民の割合	68.4%	75.6%	68.4%	68.0%	☐	指標の状況が、基準値と比べほぼ変化がない状況であるため、□とした。

◎：順調に推移している。
○：おおむね順調に推移している。
□：変化がない。
△：やや悪化している。
×：悪化している。

◆基本目標5　－　施策1）　文化芸術による新たな価値の創造と観光・産業分野等との連携　－　a　文化資源を活用した観光振興

事業No.	事業名	計画書ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度実施状況	令和4年度自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度（実績）	2022年度（実績）	2023年度（実績）	2024年度（実績）	2025年度（実績）	2026年度（実績）			
5－1）－a－①	歴史的資源を活用した観光まちづくり事業	p. 51	－	観光部	観光課	歴史的資源の観光面での活用を図るため、文化財等の活用可能性を調査するとともに、飲食・宿泊利用等での試験的活用を行うもの。	試験的活用から本格運用へと昇華した文化財等件数	1件	3件	5件					A	観光面での活用はもとより、取組み自体を一過性のものとしないために、産学官金連携の座組みで、活用することで持続的な保存に繋げる歴史的資源の保存・活用好循環スキームの構築も図れたため。	令和4年度に引き続き、国の有利な財源・制度を活用し、試験的活用から本格運用へと昇華した文化財等を絡めた観光ツアー造成することで、文化資源の観光収益化を図る。
5－1）－a－②	近代建築ツーリズム推進事業	p. 51	－	都市整備部	都市計画課	前川國男設計の公共建築物が存在する9自治体のネットワークにおいて、情報やノウハウの共有・魅力的なPRツール開発により近代建築の魅力を広く発信し観光資源化を促進する。	実施した事業数	5事業	5事業	5事業					A	実施計画の5事業をすべて実施することができ、前川建築の魅力発信に繋がった。	1. 総会開催 2. 弘前さくらまつりでの展示 3. 前川建築カード配布 4. 市内での前川建築パネル展の実施 5. 前川建築パネルの庁内設置
5－1）－a－③	弘前城本丸石垣整備事業（再掲）	p. 51	○	都市整備部	公園緑地課	弘前城本丸石垣整備事業に伴い、関連イベント等を実施する。	市内学生史跡見学者数	－	－	377人					B	概ね各校の希望日で実施できたうえ、史跡見学会自体が好評であった。	5月から10月までの期間で史跡見学会を受入れる。

A：予定（計画）どおり実施した
B：おおむね予定（計画）どおり実施した
C：予定（計画）どおり実施できなかった
－：コロナ等不可抗力により実施できなかった

◆基本目標5　－　施策1）　文化芸術による新たな価値の創造と観光・産業分野等との連携　－　b　文化芸術を通じた産業振興

事業No.	事業名	計画書ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度実施状況	令和4年度自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度（実績）	2022年度（実績）	2023年度（実績）	2024年度（実績）	2025年度（実績）	2026年度（実績）			
5－1）－b－①	工芸品の販路拡大・販売促進事業	p. 51	－	商工部	産業育成課	国の伝統的工芸品に指定されている「津軽塗」や、地元で生産されている各種工芸品の国内外の販路開拓・拡大に総合的に取り組み、地域産業の活性化の促進を図るもの。	津軽塗の総生産額	275百万円	－	－					B	津軽塗については、展示会の出展・PRや後継者育成事業が円滑に実施され、津軽塗業界の活性化に繋がった。その他の工芸品についても、藤田記念庭園匠館での一部企画展が中止となったものの、工芸品の製作体験事業はおおむね予定どおりに実施した。	令和5年度より、工芸品魅力向上事業費補助金を新設し、工芸品の販路開拓・拡大に向けた取組の強化を図る。

基本目標5　－　施策2）　さまざまな主体と連携した文化芸術によるまちづくりの推進　－　a　さまざまな主体や事業との連携・協働

事業No.	事業名	計画書ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度実施状況	令和4年度自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
								基準値	2021年度（実績）	2022年度（実績）	2023年度（実績）	2024年度（実績）	2025年度（実績）	2026年度（実績）			
5－2）－a－①	【新規】中間支援にかか事業等の検討（再掲）	p. 51	○	観光部	文化振興課	多様な文化芸術団体の情報を集約し、団体の活動の中間支援や活動の支援・連携のコーディネートを行うことで、さらなる文化芸術活動の活性化を図るもの。	－	－	－	－				－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。

基本目標5　－　施策2）　さまざまな主体と連携した文化芸術によるまちづくりの推進　－　b　地域のイベントとの連携（来場者数の増加と発信力の強化）

事業No.	事業名	計画書ページ	再掲	担当部	担当課	事業内容	参考指標							令和4年度実施状況	令和4年度自己評価	評価の理由	令和5年度以降の実施計画
							指標の名称	基準値	2021年度（実績）	2022年度（実績）	2023年度（実績）	2024年度（実績）	2025年度（実績）	2026年度（実績）			
5－2）－b－①	【新規】地域のイベントと連携した文化芸術事業の検討（再掲）	p. 51	○	観光部	文化振興課	集客の見込める四大まつりなど、地域のイベント等と連携した文化芸術事業を展開することで、弘前の文化芸術の魅力を市内外の多くの人々が触れられる機会の創出を図るもの。	－	－	－	－				－	－	－	新規事業創出の際に、実施計画を立てる予定。